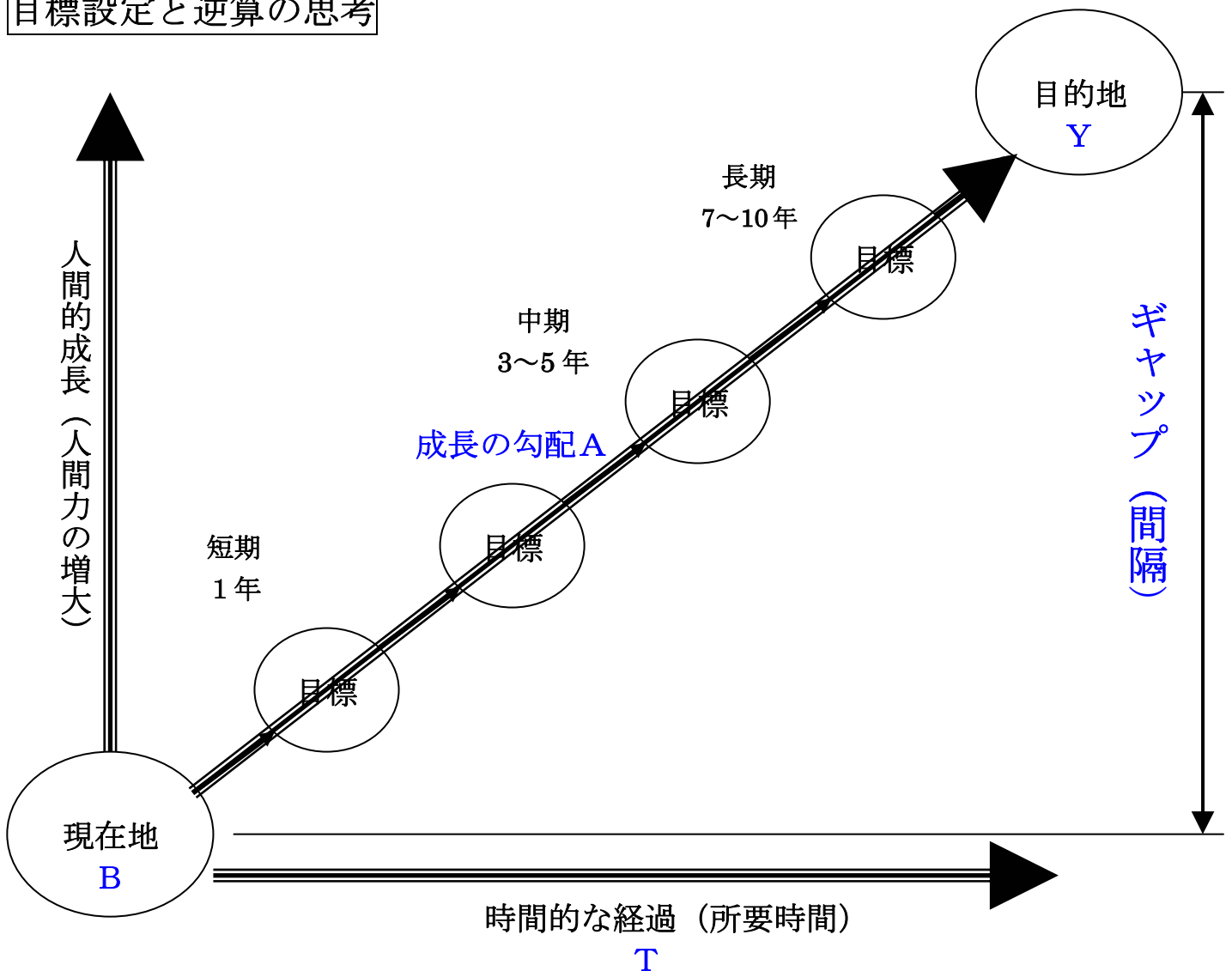


目標設定と逆算の思考



逆算の思考とは、次の計算式で求められるものです。

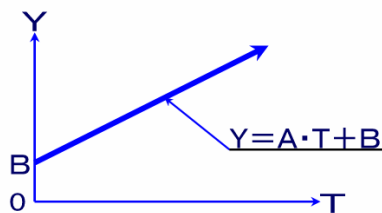
$$\text{目的地 (Y)} - \text{現時点 (B)} = \text{ギャップ (間隔)} \dots \dots \dots (1)$$

$$\text{ギャップ (間隔)} \div \text{時間的な経過 (T)} = \text{成長の勾配 (A)} \dots (2)$$

$$Y = A \times T + B \dots \dots \dots (3)$$

$$Y - B = A \times T$$

$$T = (Y - B) \div A \dots \dots (4)$$



(4) の式より

時間的な経過 (T) は、ギャップ (間隔) を成長の勾配 (A) で (÷) 除したもののなのです。

しかし、実際の成長の勾配は一定ではないため、試行錯誤を何度も行い、適正な成長の勾配 (A) を見つけ出す必要があります。すなわち計画を何度も立て直すのです。 (これが大切なポイント)

長期の目的達成の計算式を使って、短期の目標達成の計算をすることもできます。

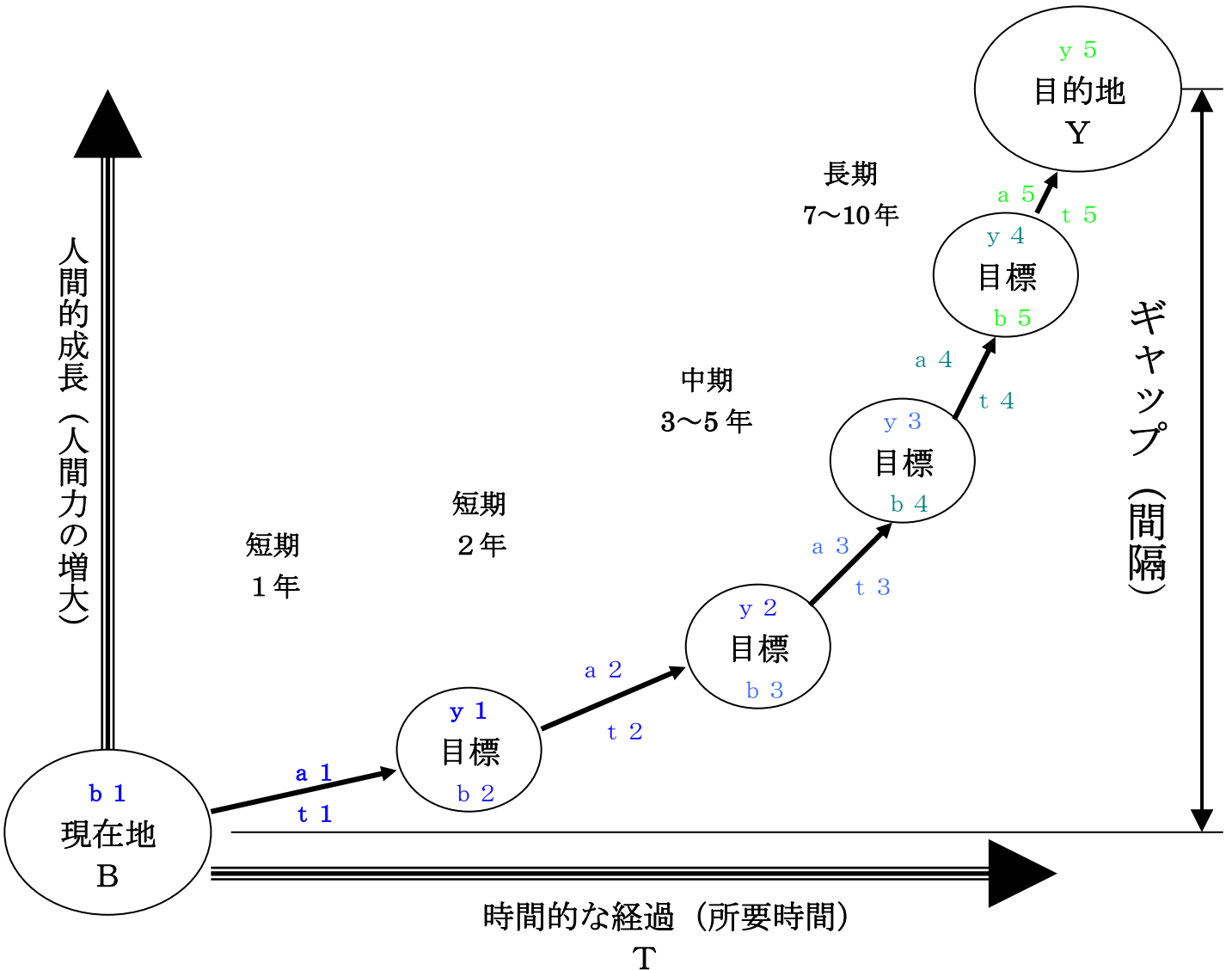
すなわち目的地 (Y) を目標 (y) に置き換え、現在地 (B) を現地点 (b) としてギャップを求めます。実際の式で説明しましょう。

(1) の式に代入することにより $y - b = \text{ギャップ}$ が求められます。ギャップを達成するのに必要な時間 (t) を仮定して (2) の式に代入することにより $\text{ギャップ} \div t = a$ 適正な成長の勾配 a が求められます。

$$y = a \times t + b$$

このように上記の一次方程式に代入することで様々な目標達成の計画が可能になるのです。

図で実際の目標設定の方法を表現してみます。



ここで分かることは、現在地から成長の勾配×必要な時間の延長線上に目的地はないのです。よって目標設定における大切なことは、何度も試行錯誤を繰り返し適正な成長の勾配を求めながら長期計画→中期計画→短期計画→年次計画→四半期→月次計画→週計画→日計画→時間計画を設定していくことです。現地点の延長線上には未来があり、過去を振り返ると結果や成果があるのです。